

施食会とは

施食会を「せしょくかい」とか「じょくじかい」とおつしやつているの

を時々耳にします。

お寺から食べ物が出るから「しょくじかい」ではありません。正しくはこれ「せじきえ」と読みます。食を施すと書いて施食会です。

供養と言えばご先祖様を想像しますが、中には、誰からも供養をされない有縁無縁の御魂などもたくさんある訳です。

施食会は皆様のご先祖様は勿論のこと、そういつた御魂にも食と法を施す儀式なのです。

仏教の生き方は、先祖から生きとし生ける物まで、自分以外のすべての存在とのつながりを忘れずに、「ありがとう」や「おかげさま」の心、「生かされている」という気持ちを持つ事です。

施食会は、そんな人間本来の感謝と報恩の美しい心を育むように、皆様のご先祖様はもちろんの事、多くの有縁無縁の御魂にも御供養のお気持ちをお届けするわけです。

また、施食会は元々は施餓鬼会と言われておりました。餓鬼に施すと書いて施餓鬼会です。

ルーツはお釈迦様の時代となりま

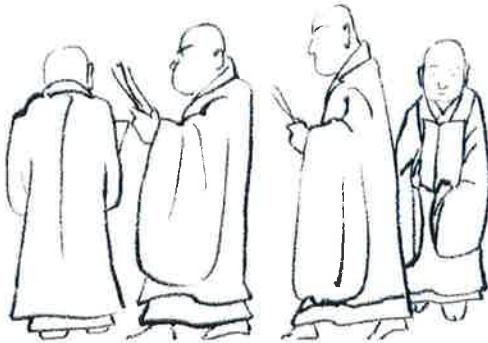
す。

ある時、お釈迦様の弟子の阿難尊者という方が、餓鬼に「お前は餓鬼道におちる」と告げられました。

お釈迦様は、「餓鬼を満たす陀羅尼（呪文）を唱え、餓鬼に食べ物を施せば、一切の

餓鬼が救われる」と説かれ、阿難尊者は言うとおりにし、その後は餓鬼に墮ちずに長寿を全うされました

あります。



そして、この話が時代と共に儀式化され、餓鬼道に墮ちて苦しんでいる無縁仏を供養することは同時に、私達の先祖供養へ回し向けられると今日の施餓鬼会、施食会となつた訳です。

■ 本日の御法話

今年度の法話は曹洞宗関東管区教化センター主監、栃木県足利市明林寺住職、西田正法（にしだしようぼう）老師の御法話となります。

約一時間、どうぞ旧見を捨ててお聞き頂ければと思います。



施食会差定(式次第)

一、導師入堂

一、鼓鉢三通

一、拈香法語

一、読経

☆ 大悲心陀羅尼

☆ 甘露門(僧侶焼香)

回向

☆ 修証儀(遡行後、

檀信徒焼香)

回向(塔婆読み込み)

一、鼓鉢三通

一、導師退堂

拈香法語(ねんこうほうご)

導師が法要を迎えるに当たって、
一本の線香に心を込め、そしてその
気持ちを言葉に致します。

修証義(しゅしょうぎ)

修証義は曹洞宗開祖、道元禪師の
著書「正法眼藏」九十五巻を再構築

☆印が本日読むお経です。経本を
お持ちの方は、参列の僧侶と一緒に
に声を合わせてお読み下さい。

焼香は修証義読経中に御案内しま
すので、慌てず順番にご焼香お願ひ
致します。

尚、お塔婆は式終了後、境内に墓
地聖域ごとに分けてお並べ致しま
す。

詮句解説

導師(どうし)

儀式の中心となる僧侶の事を言い
ます。尚、本日の導師は当山住職で
ございます。

甘露門(かんろもん)

このお経は、迷える魂や飢えた魂に、
食と仏法を施すことにより、その功
徳があらゆる魂への供養とな
るようにお祈りをするお経です。

また、甘露門の中の陀羅尼を唱えな
がら一つまみの食べ物を施すと、それ
が無量の食べ物に変わって無数の魂を
救うことが出来ると言われております

鼓鉢三通(くはつさんつう)

印金、太鼓、妙鉢を三遍鳴ら
す事によって本堂を清めます。

大悲心陀羅尼(だいひしんだらに)

陀羅尼とはインドの言葉(梵語)

をそのまま漢字に音写した祈りの言葉
の事です。梵語そのものに神秘的な力
が備わっており、訳して読んでしまっ
とその力が失われると考えられており
ます。

した經典です。

一章から五章に分けて、曹洞宗の教えを説いております。

本日の読経は第一章と第二章となります。

第一章は、「総序」とい、無常、
縁起、今を精一杯生きる大きさなど仏
教の基本的な教えを説いてます。

第二章は、「懺悔滅罪」とい、かつて作つたところの多く悪しき行為全てを仏の前で懺悔をすれば、罪の根源をなす自我が鎮まり、謙虚になれ、清らかになると説いています。

遡行(にようぎょう)

遡行とは僧侶がお経を詠みながら本堂大間をぐるぐると廻ることです。お釈迦様の亡骸を荼毘(火葬)に付そうとした時、火がつかなかつた所、弟子がお釈迦様の周りを廻つた所、たちどころに火がついたという故事から今日ではご供養の最高の儀礼となつております。



願はくは此食を施す、所生の功德、

普く以て法界の有情に廻施して、諸々の有情と、平等共有ならん

(甘露門)

うらぼんえおわさん

盂蘭盆会御和讃

(一) 驚まぶたをとじれば在りし日あひの

面影浮かぶみほとけを

おもかげう

法悦よろこびびむかえうらぼんえ迎うむかええし盂蘭盆会うらぼんえ

つどいありがたいのちの集つどいい有難うれしきや

(二) 流ながるる悠久とわの歳月ときを超こえて

仏法おしえに目覺めざめしもろびとと

ご先祖せんぞまつる盂蘭盆会うらぼんえ

ささぐ誠心まことの御供養おんくよう

(三) 水面みなもに映ゆる灯明はに

永ながき安寧やすらぎ願ねがいこめ

精靈しょうれい送おる盂蘭盆会うらぼんえ

尊とうとき法要まつりに仏道みちを知しる



※法要開式十五分前より、ご供養のために当山梅花講が御詠歌を奉詠します。